



シナプス

～園長室だより～



令和2年4月

あかるく・やさしく・たくましく

■入園・進級おめでとうございます！

お子さまの入園あるいは進級、誠におめでとうございます。『新元号の発表』に『幼児教育・保育の無償化』、『新型コロナウイルスの世界的感染拡大』と、未だかつてない怒涛の令和元年度が幕を閉じましたが、今なお続く感染拡大に今後の情勢が非常に気になるところです。

とはいうものの、子どもたちの成長と同様に時間は流れていますのでいつまでも立ち止まる訳にはいきません。まずは、今、置かれている状況の中で何ができるのかを見極めつつ、この新年度、新学期をスタートさせて頂ければと思います。

政府より示された「学校再開ガイドライン」には、大きく3つの感染症対策が求められています。

- ① 基本的な感染症対策の実施（感染源を絶つ）
検温や風邪症状の確認。
- ② 感染経路を絶つ
手洗いや咳エチケットの徹底。
- ③ 抵抗（免疫）力を高める
十分な睡眠、適度な運動やバランスの取れた食事

また、危惧される集団感染については、①密閉空間 ②密集 ③近距離での会話・発声 の**3つの条件が重なる場の危険性**が示されているので、この3つの条件が重なる場を避けることが重要です。園においても、各保育室の換気を徹底しつつ、1クラスで2つの保育室を使うなど、良好な環境を保つよう取組みを進めて参ります。

いずれにしても、子どもたちの感染リスクと生活環境の

バランスを考えながら、できるだけ子どもたちに登園してもらえる環境作りを心がけています（もちろん感染の状況によりますが）。

今回の突然の休校措置は様々な影響と問題提起を行いました。テレワークの拡大による就労スタイルの変化と同じように、教育の家庭学習化もこれを機に進むのか。「三間（時間・空間・仲間）」の重要性を説いてきた教育にとって、本当の教育とは何なのかということ問いかけられているような気がします。デジタル・イノベーション、AI化の進む中で今回の休校措置は教育のデジタル化をさらに推し進めるきっかけになり、その就学前教育である「幼児教育」にも少なからずその波は押し寄せてくるはずですが、今回の事を機に、世の中の様々なことが変わるかもしれませんし、変わらなければなりません。しかしながら、幼児教育にはやはり「三間」が大切だと言わざるを得ません。小学校以降の学習がどのような形になろうとも、その形に対応できる人格形成をする場が幼稚園であり、幼児教育の真髄だからです。

長い冬が明け、いよいよ春本番の到来です。美しい虹を見るためには雨が必要のように、新型コロナウイルスを早期に終息させ、当たり前前の日常を取り戻すべく感染症対策を個々のレベルで徹底して頂ければと思います。病気になった時もそうですが、何気ない日常の有難さ、当たり前前の日常が突然日常ではなくなる事を体感したからこそ気付くこともあり、これからの新年度、子どもたちを中心に保護者の方と共に改めて子育てを楽しめればと考えています。

1年間、どうぞよろしくお願い致します。

園長 野口 大仁